



民間からの参加

一般社団法人日本ネットワークインフォメーションセンター

やまさき
山崎 信



第19回インターネットガバナンスフォーラム (IGF 2024) は2024年12月15日 (Day 0) から19日 (Day 4) にかけて、サウジアラビアの首都リヤド及びリモートにて開催された*1。本稿では、民間から参加した者の視点から見た内容を紹介したい。なお、IGFとは何かについては、ITUジャーナル Vol. 54 No.4 (2024年4月号) *2の拙稿をご覧ください。

1. 参加状況

- 参加登録者数：11,749名 (国連加盟国の75%より参加)
- 参加者数：10,143名 (内訳は政府48%、政府間組織7%、市民社会11%、民間セクター25%、技術コミュニティ7%、記者団、報道機関1%、児童1%となっている)
- 現地参加者数：7,343名 (144か国より)
- 遠隔参加者数：2,800名以上

京都で開催されたIGF 2023に比べると、政府からの参加者が32%増えたのに対し、市民社会は13%減、民間セクターは12%減、技術コミュニティは7%減などとなっている。

2. テーマ

全体テーマは公募された案から選定され、Building our



■ 図1. メインセッション等の会場

CC BY-NC-SA <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.0/jp/>
<https://flic.kr/p/2qAK5i8>

写真提供：IGF-Internet Governance Forum

multistakeholder digital future (マルチステークホルダーによるデジタルの未来の構築) となった。サブテーマは以下のとおりである。

- デジタル時代における人権と包摂の推進
- 平和、開発、持続可能性へのデジタルの貢献を強化
- デジタル空間におけるイノベーションの活用とリスクのバランス
- 我々が望むインターネットのためのデジタルガバナンスの改善

3. 主な内容

セッション数は全部で307であった。2023年と同様、ワークショップなどは公募されたものの中から選定された。

3.1 開会式

Day 1に開催された開会式でのスピーチ・プレゼンテーションの内容の概要のうち、主なものをピックアップした。

アントニオ・グテーレス 国連事務総長

デジタル技術の可能性をすべての人々のために開放する



■ 図2. ワークショップ等の会場

CC BY-NC-SA <https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.0/jp/>
<https://flic.kr/p/2qBvFpQ>

*1 <https://www.intgovforum.org/en/dashboard/igf-2024>

*2 https://www.ituaj.jp/?itujournal=2024_04

には、ガバナンスに対するガードレールと協調的なアプローチが必要である。グローバル・デジタル・コンパクト（GDC）を実施するにあたり、IGFの活動と意見は極めて重要となる。

アブドゥラ・アルスワハ 通信・情報技術大臣（サウジアラビア）

今や、デジタル格差はグローバル・ノースやグローバル・サウスといった問題ではなく、私たち全員の問題であり、10人中8人が取り残されてしまうからこそ、この格差は私たち全員に関係する。もし過去に多国間主義やマルチステークホルダー主義を実現できなかったのであれば、このIGFでは合意に達する必要がある。そして、アルゴリズムの格差、データやコンピューティングの格差に再び取り組む必要があり、自分たちが有益で正直で無害であることを確認するためのアルゴリズムを私達は必要としている。また、AIやデータサイエンティストが、私たちを排除するためのガードレールを挿入し、ハードコーディングしていないことを確認する必要がある。

ドリーン・ボグダン＝マーティン ITU事務総局長

デジタルインフラは、これまで以上に多くの人々が接続する上で不可欠な存在となっているが、課題は増大し続けており、2023年には、世界中で200本以上の海底ケーブルが損傷したと報告されている。また、サイバー攻撃は前年比で80%増加している。

気候危機が悪化する中、自然や自然災害が物理的インフラに与える影響はますます大きくなっている。だからこそ、カバレッジ、冗長性、セキュリティ（物理的及びサイバーセキュリティ）、堅牢性という観点から、レジリエンス（復元力）の問題に取り組む必要がある。来年開催される世界情報社会サミット20周年評価（WSIS+20レビュー）に向けた道のりの重要な道標として、グローバル・デジタル・コンパクト（GDC）が位置付けられる中、我々は今、よりレジリエントで持続可能なデジタル未来の基盤を強化する重要な機会を得ている。

トルゲイル・ミカエルセン デジタル化・公共ガバナンス省事務次官（ノルウェー）

2025年、国連はWSIS+20レビューを実施し、デジタルの進展を評価し、新たな目標を設定する機会を提供する。IGFは、インターネットガバナンスに関するマルチステークホルダーの議論の主要な場であり続けるべきである。ノル

ウェーはIGFの強化に貢献し、20周年となるIGF 2025を開催する。すべての関係者を歓迎し、今後の対話の発展を共に築いていく。

カーティス・リンドクヴィスト Internet Corporation for Assigned Names and Numbers（ICANN）事務総長兼CEO

いまだに何十億もの人々がインターネットに接続されていない。オンラインで利用している人々も、依然として、料金、アクセス、デジタルリテラシーなどの障壁に直面している。これらを克服するには、革新的なアプローチ、協調的な取り組み、そして包摂性に対する新たなコミットメントが必要である。インターネットが世界的に接続され、安全で強靱であり続けるためには、重要なリソースやコンポーネントを保護・管理する組織を含む技術コミュニティをこうした対話に含めることが不可欠である。IGFは、こうした課題に共同で取り組むユニークな機会を提供する。

3.2 ハイレベルリーダーズトラック

開催国サウジアラビアと国連経済社会局（UN DESA）／IGF事務局の共催による「IGF 2024ハイレベルリーダーズトラック」では、信頼のおけるデジタルの未来、倫理的なAIガバナンス、デジタルアイデンティティ、WSIS+20、オンライン上の児童保護など、一連の重要な問題について、すべてのステークホルダーグループの専門家やリーダーが議論を行った。

このトラックの目的は、政府を含む利害関係者の幅広い層からリーダーを集め、解決には多様な利害関係者と多分野にわたる取り組みが不可欠な問題について、対話と知識の交換を行うことであった。

ハイレベルリーダーズトラックのセッションは、以下のテーマで開催された。

- 誤情報の迷路を抜け出す：信頼されるデジタル未来のための戦略的協力
- インターネット取引を保護するためのデジタルID認証の拡張
- AIにおける透明性と説明可能性の探究：倫理上の要請
- 未来サミットからWSIS+20へ
- デジタル世界における子供の権利の保護

3.3 ユーストラック

IGF 2024ユーストラックでは、AIガバナンスをテーマに、



4つの能力開発ワークショップとグローバルユースサミットが開催された。ワークショップはリトアニア、チリ、エチオピア、台湾で実施され、責任あるAIの活用、人権への影響、ガバナンスの構築について議論された。グローバルユースサミットは12月15日にリヤドで開催され、若者と専門家の間で意見が交わされた。

若者からパブリックに向けた主なメッセージは以下のとおり。

- AIを活用し、教育者の業務負担を軽減しつつ、学生主体の学習を促進
- デジタル格差を解消し、すべての人がAIツールを利用できる環境を整備
- 透明性と公平性を確保する倫理的なAIフレームワークの導入
- 若者がAI開発に関与し、未来に適した技術を創出
- 個別最適化された学習支援、多言語対応、堅牢なデジタルインフラへの投資
- 強固なデータプライバシー保護と国際協力による教育分野でのAI活用の促進

3.4 議員トラック

リヤドでのIGF 2024では、35か国以上から90名以上の議員が参加し、グローバル・デジタル・コンパクト（GDC）やWSIS+20レビューを含むデジタル協力について意見を交換した。IGF 2024の成果文書では以下が提言された。

- デジタル政策協力の強化（国家・地域・国際レベルでの連携）
- AIガバナンスの向上、倫理基準の策定、議会間協力の推進
- マルチステークホルダー対話の促進（IGFへの積極的な参加）
- 若者・ジェンダー包摂を推進し、デジタル政策への関与を拡大
- 議員の能力開発を支援し、デジタルリテラシーを向上
- 国連機関やIGFとの継続的な関与を強化し、国際的な協力を促進

3.5 メインセッション

AIガバナンスに関する全体会議「私たちが求めるAIガバナンス」概要

Day 2に開催された、IGF 2024における全体会議「私たちが求めるAIガバナンス」では、AIの責任・相互運用性・

持続可能性・労働政策に関する重要な課題と政策提言が議論された。本セッションは、IGF 2024で設立された「AIに関する政策ネットワーク（PNAI）」が先導し、特にグローバル・サウスにおけるAIガバナンスの課題に焦点を当てた。主要な論点として、まずAIガバナンスの課題と目的として、グローバルなガバナンス枠組みが必要であり、規制の断片化や抜け穴を防ぐことが求められること、AIは平和と安全保障にも影響を及ぼしているため、国際協力の強化が不可欠であることが挙げられた。次いで、AIガバナンスの重要課題と題して、責任とアカウントビリティ（説明責任）、相互運用性と規制の調整、持続可能性と環境への影響、労働とAIの影響についてそれぞれ議論された。その次に、AIガバナンスの推奨策が議論され、次の対策が挙げられた。

- AIガバナンスの目的を明確化し、安全で信頼できるAIを促進
- グローバルなAIガバナンス枠組みを構築し、既存の電力・インターネット規制の成功例を参考にする
- 透明性と説明責任を強化し、AIの意思決定プロセスを明確化
- 国際協力を推進し、相互運用性の確保と政策の調和を図る
- 倫理的なAIのイノベーションを奨励し、社会・経済の利益を最大化

結論は、AIガバナンスは「事後対応」ではなく「事前対応」が必要であり、責任・規制・持続可能性・労働政策に関する包括的な取組みが求められることと、グローバルなAI条約の実現は難しいが、国際協力と共通の政策枠組みが不可欠であることの2点となった。

メインセッション1：グローバルアクセスと進歩—デジタルの普及の課題管理

Day 1に開催された本セッションでは、デジタル接続の重要性と、世界的なデジタル包摂を達成する上での課題について議論された。特に、インターネットへの有意義なアクセス、コスト、スキル開発、政府と民間セクターの協力の必要性が強調された。

主要な点として、接続の重要性（接続は単なる利便性ではなく、教育、医療、経済機会に不可欠）、課題として遠隔地や農村地域でのインフラ不足、デジタルリテラシーの不足により、インターネットを有効活用できない人が多いことなどが挙げられた。これらへの解決策と戦略としては、政府がインフラ開発のための政策や補助金を提供すべき、

コミュニティ主導のネットワークや地域オーナーシップモデルが持続可能なアクセスを確保すべき、などが提案された。セッションの最後には、「デジタルアクセスはグローバルな優先事項であり、各セクターの協力がデジタル普及の課題を克服する鍵である」との強いメッセージが発せられた。

メインセッション2：危機や紛争時におけるインターネット基盤の保護とアクセス維持

Day 2に開催された本メインセッションでは、危機や紛争、自然災害時におけるインターネット基盤の保護について議論が行われた。特に、インターネットの遮断が市民に与える影響、接続を確保するための法的・規範的枠組み、そして今後の対策について議論された。

主要な点として、インターネット遮断の影響、規範的・法的枠組み、民間企業・技術コミュニティの対応、課題と今後の対応について主に議論された。例えば、インターネット遮断については、政府や武装勢力が情報統制や人道支援の妨害を目的として意図的にインターネットを遮断する事例が増加していることが報告された。

課題と今後の対応としては、インターネット遮断を違法行為として社会的に非難（スティグマ化）し、制裁措置を講じるべきとの提案があった。また、IGFコミュニティは、WSIS+20の機会を活かし、インターネット接続の保護を国際的な課題として推進する必要があること、国連主導の迅速対応メカニズム（例：海底ケーブル修復支援）の創設が提案された。

プレナリー（本会議）：私たちが望むインターネット

Day 3に開催された本セッションでは、将来のインターネットのあり方について議論が行われ、アクセスの公平性、安全性、開放性、人権尊重の重要性が強調された。主なテーマと議論は次のとおり。

1. インターネットは動的で進化し続けるシステム：インターネットは静的なものではなく、継続的な管理と技術革新が必要であり、IGFは、インターネットを観察し、そのすべての次元においてインターネットが何を持つかを見るための継続的なプロセスとして不可欠
2. 「私たちが望むインターネット」の5つの柱
 - 統一され、開かれたインターネット：政府による不必要な制限をなくし、すべての人がアクセスできる環境を整える
 - 普遍的で包摂的なインターネット：2030年までに約

25億人の未接続人口をオンラインにするための取り組みを強化

- 自由で信頼できるインターネット：国境を超えたデータ流通を促進し、プライバシーと人権を守る
 - 安全でセキュアなインターネット：サイバーセキュリティの強化、子供たちの保護、オンライン上のハラスメントや犯罪への対策
 - 人権を尊重するインターネット：インターネット遮断の防止、オンライン上の自由とプライバシーの確保
3. 課題とステークホルダーの役割
- 政府と企業の連携強化により、安価で公平なインターネットサービスの提供を目指す
 - 技術コミュニティは、人権を考慮した技術開発を推進する必要がある
 - マルチステークホルダーによる協力により、効果的なガバナンスモデルを構築

4. IGFの未来とWSIS+20

- WSIS+20レビューはIGFを強化し、その持続可能性を確保する機会として重要
- IGFの制度化と安定的な資金確保の必要性が強調された
- IGFの認知度、アクセス性、影響力を向上させるための具体的な提案がなされた

5. コミュニティからのフィードバックと今後の方針

- IGFは自由な対話と知識共有の場として重要
- IGFをGDCの議論の場として活用すべき
- IGFでの議論を政策決定に反映させるため、より詳細な報告や記録の強化が必要

本セッションでは、包括的で安全かつ人権を尊重するインターネットを実現するための具体的な行動が求められた。IGFを活用し、より効果的な国際協力と政策立案を進めることが今後の課題となると思われる。

4. 考察

2025年に予定されている「世界情報社会サミット（WSIS）から20年後の見直し（WSIS+20）」は、IGF 2024の議論において大きな存在感を示し、WSIS+20が今後10年間の世界的なデジタルガバナンスと開発の方向性を定める上で極めて重要であることが広く参加者に認識された。その中で注目すべき点は、IGF自体の将来であった。2005年のジュネーブアジェンダで開設が定められたIGFの現在のマンドートは2025年までとなっており、WSIS+20ではその更新について



て決定しなければならない。

WSISプロセスから生まれた、「強化された協力」（拡大協力、協力強化とも呼ばれる）という概念は、インターネット関連の公共政策について各国政府が協力するための改善されたメカニズムを表現するために、WSISプロセスから生まれたものである。IGF 2024では、新しい機関を提案するのではなく、議論は既存のマルチステークホルダーの枠組みを強化することに集中していた。IGF自体は既に成功を収めているので、再構築ではなく、強化すればよいという意見が多く聞かれた。

さらに、実用的な強化策の一例として、IGFの慢性的な予算不足（IGFは国連の通常予算外で運営されている*3）を解消するために、安定した多様な資金源を確保することが重要であると判断された。これにより、フォーラムの独

立性が確保され（特定の寄付者による過大な影響を防止）、長期的な取組みが可能になると見込まれる。大手テクノロジープラットフォーム企業は、安定したインターネットから利益を得ているにもかかわらず、IGFへの資金拠出は最小限にとどまっているとして、企業としての社会的責任の一環で、支援を強化するよう促されたようである。

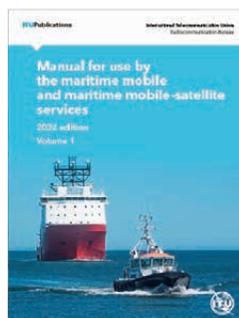
WSIS+20でのIGFの開催継続の決定は、特に国連加盟国のリーダーがGDCを通じてIGFの役割を承認していることを踏まえると、交渉の材料にはせず、単純な技術的ステップであるべきだという点で幅広い合意が得られたと考える。したがって、IGF 2024はWSIS+20の交渉者たちに対し、IGFを存続させ、その存在について議論するのではなく、その改善（資金調達や成果など）に焦点を当てるべきであるというメッセージを送ったことになると考えられる。

*3 <https://www.intgovforum.org/en/content/funding-faqs>

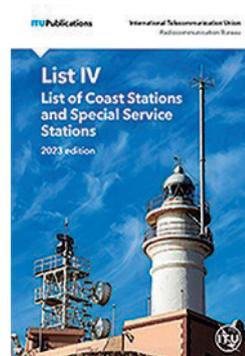
国際航海を行う船舶局に必須の書類 好評発売中！



-New!-
船舶局局名録
2024年版



-New!-
海上移動業務及び
海上移動衛星業務で使用する便覧
2024年版



海岸局局名録
2023年版

お問い合わせ: hanbaitosho@ituaj.jp

